

平成 30 年 6 月 26 日現在

機関番号：18001
 研究種目：基盤研究(C) (一般)
 研究期間：2014～2017
 課題番号：26370322
 研究課題名(和文) 沖縄を舞台にしたアメリカ小説の基礎的研究

研究課題名(英文) American Novels set on Okinawa

研究代表者

渡久山 幸功 (TOKUYAMA, Yukinori)

琉球大学・グローバル教育支援機構・非常勤講師

研究者番号：20412869

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：沖縄を舞台にしたアメリカ小説を分析し、米国作家が沖縄(人)をどのように描写しているかを検証し、ポスト・コロニアル理論を応用して、米軍基地の影響が大きい沖縄の軍事植民地状況を読み解いた。4作品を対象にしたが、米軍基地への批判的な視座を持つ作品と沖縄文化に敬意を払い、米沖関係の改善を希望する作品の2種類の傾向があることが分かった。また小説『八月十五夜の茶屋』に関して、これまでベールに包まれていた創作過程をスナイダーアーカイブの第一次資料を分析しながら解明できたことは大きな収穫であった。研究論考は、沖縄地元の大学の紀要や研究機関の学会誌に論文を発表し、沖縄及び米国の学会で口頭発表を行った。

研究成果の概要(英文)：The main purpose of the study looked at how American authors described Okinawa and Okinawans in their novels set on the postwar Okinawa. In applying postcolonial theories, I explored Okinawa's (post)colonial conditions greatly influenced by the US military presence on the islands. There are basically two types of fiction: stories that criticize the US military control over the Okinawan society and ones that hope the US-Okinawa relations to be improved in respect for Okinawan culture and spirituality. I also held a symposium in Okinawa, in which American scholars and authors participated.

It is an unlooked-for result of the study to be able to unearth the creative process of The Teahouse of the August Moon, the most famous story set on Okinawa written by Vern Sneider, by analyzing the primary sources at the Sneider Archive in Monroe County Historical Museum.

I presented papers at the conferences in Okinawa and the USA and got some of them published in Okinawa.

研究分野：アメリカ文学

キーワード：アメリカ小説 沖縄 在沖米軍基地 ポストコロニアル理論 沖縄(人)表象 ヴァーン・スナイダー
ジョン・パトリック

1. 研究開始当初の背景

2010年から2012年の3年間科研費助成を受けて「歪められた沖縄像 『八月十五夜の茶屋』小説・演劇・映画の比較検証」(研究代表者 名嘉山リサ 沖縄工業高等専門学校)の包括的研究に携わる機会を得た。その共同研究において、私は原作となった小説(Vern Sneider 著)を担当した。その共同研究終了後、沖縄を舞台にしたアメリカ文学に関心を持つようになり、リサーチを始めた。1945年(太平洋戦争終了)以前の沖縄に関する西洋の言説は、旅行記、航海日誌などトラベルライティング的な要素が強く、フィクション形式は皆無であったが、沖縄戦終戦以降、米軍統治開始後の沖縄を舞台にした幾つかの小説を確認することができた。それらは、スナイダーの第3作目にあたる *The King from Ashtabula* (1960年)、*B.C. Street* (E. A. Cooper 著 2007年)、*Gift of a Blue Ball: A Path of a Fortune-teller in Okinawa* (J. P. Tuthill, Sir 著 2007年) 及び *Katsuren: An Okinawa Love Story* (Celine Nisaragi 著 2009年)の4作品である。これらの4作品には先行研究が全くないことが判明し、これらの小説を研究することは、1945年以降70年以上も駐留する米軍組織と密接に関わりを持ってきた沖縄の現代史の観点からも十分に価値があると判断して、科研費を申請した。

2. 研究の目的

1945年以降のアメリカと沖縄の関係性において、これまで沖縄の現代作家は、沖縄戦を含めて、アメリカ人、特に、米軍人とのかわりを描いた文学作品を多数発表してきており、国内外の研究者による学術研究もかなり進んでいる。他方、アメリカ人作家による沖縄を舞台にした作品は少なく、またその学術的研究は、スナイダー作の『八月十五夜の茶屋』の例外を除いて、ほとんど皆無に等しかった。従って、本研究では、アメリカ人作家による沖縄を舞台にした文学作品(小説)を研究対象とし、アメリカ側がどのように沖縄(人)を観察し、米軍基地の影響下にある戦後沖縄を描写してきたか、を検証・解明することを目標とした。

3. 研究の方法

上記の4作品に関して文学研究的な従来型のアプローチを行うというのが基本的な方法であるが、この研究のケースでは先行研究がほとんどないという重大な壁にぶつかった。その大きな理由は、*B.C. Street*、*Gift of a Blue Ball*、及び *Katsuren* の3作品とも2007年以降に出版されており、さらに基本的に自費出版であるため、これまで注目度は極端に低く、特に、学術的な反応が全くなかったということである。そのため、研究方法として、著者本人にインタビューを行うことを主な研究作業とすることにした。*B.C. Street* のクーパー氏と *Katsuren* のニサラギ

氏にインタビューを行うことはできたが、残念ながら *Gift of a Blue Ball* のトットヒル氏の所在が確認できず、インタビューを実施することができなかった。

研究最終年度にシンポジウム開催を計画していたため、著者本人及びアメリカ人の米文学研究者にシンポジウム参加を依頼し、アメリカ人研究者の本格的な論考執筆をお願いした。これは、沖縄・日本からの視点だけではなく、アメリカ側の視点も取り入れる形で総括的な研究を企図とした。当初計画には入っていなかったが、連携研究者のサン・デイエゴ州立大学名誉教授 Larry McCaffery 氏が、小説『八月十五夜の茶屋』に関する研究発表を希望したため、原作の学術的研究が少ない状況を考慮し、彼の希望を了承した。その時には、全く予想しなかったことだが、この判断は、当該科研費研究の成果にとって決定的な意味を持つことになった。

先行研究がほとんどないスナイダーの *The King from Ashtabula* の分析に関しては、彼の故郷ミシガン州モンロー市にあるモンロー郡歴史博物館に所蔵されている Vern Sneider Archive の第一次資料を分析することによって、研究作業を進めていった。このコレクションは、前回の科研費助成研究課題「歪められた沖縄像 『八月十五夜の茶屋』」(2010年~2012年)の段階ではアーカイブ化されておらず、2014年にスナイダー夫人が遺品を博物館に寄贈することによって、スナイダーが残した膨大な資料へ研究者のアクセスが可能になった。この第一次資料の研究は、スナイダー研究の飛躍的な進歩を意味するもので、特に、これまでペールに包まれていた『八月十五夜の茶屋』の創作プロセスを解明することに繋がった。そのリサーチ過程で浮上してきたことは、原作者スナイダーと戯曲・映画脚本を担当した John Patrick の根深い確執であった。そのため、両者の関係の理解を深めるためにジョン・パトリック・コレクションを所蔵しているボストン大学の Howard Gotlieb Archive Center を訪ね、リサーチを行った。

4. 研究成果

まず研究2年目に「ヴァン・スナイダーの第二沖縄小説 *The King from Ashtabula* 」と題して沖縄外国文学学会第31回年次大会で口頭発表した。スナイダーの沖縄文化・社会・歴史を利用した小説ではあるが、地元沖縄でも全く知られていなかったことを踏まえると、意義深い研究成果となった。また、ワシントン州シアトル市で開催された PCA/ACA 第46回年次大会では、“American Military Gazes on Okinawans: The US Military Occupation in Three American Novels”と題して、スナイダーの2作品とクーパーの *B.C. Street* を取り上げた。両著者とも、沖縄滞在時には、米軍に所属していたが、彼らの小説

は米軍沖縄統治を批判的に描いており、軍事最優先ではなく沖縄側に寄り添った統治を行うべきであると、示唆する沖縄に同情的な作品であると分析した。

研究3年目には同じく沖縄外国文学会第31回年次大会で「沖縄を舞台にしたアメリカ小説 在沖米軍、ロマンス、ユタ、戦後史」として口頭発表を行い、その中で *Katsuren* と *Gift of a Blue Ball* を観光文学 (literature of tourism) の観点から論じた。この2作品は先行研究が全くなかったため、基礎的な研究としてパイオニア的な成果となったという点で、意義のある研究となったと思う。この発表原稿を発展させ、“How have Okinawa and Okinawans been Described by American Authors?: Politics of American Writing of the US Military Foreign Islands” というタイトルで、カリフォルニア州サン・ディエゴ市で開催された PCA/ACA 第47回年次大会で発表した。アメリカ作家が沖縄を舞台にした作品を書くとき、米軍基地問題をどう取り扱うか、という問題 (ジレンマ) を抱く傾向があることを指摘した。両作品とも米軍基地問題を描写することを極力避けつつ、そのかわりに、アメリカと沖縄の将来の関係性を重視した未来志向の作品であり、ポスト・コロニアル理論の視点からは問題となる部分も多いが、沖縄の文化や精神性を掘り下げた小説として、沖縄をよく知らない大多数のアメリカ人読者にとっては、沖縄を紹介する重要な文学先品であると評価した。

また、同年に沖縄県那覇市でシンポジウム (「シンポジウム 沖縄を舞台にしたアメリカ小説」於沖縄県立博物館・美術館) を開催し、アメリカから Larry McCaffery 氏を招待し、“Riding a Galloping Horse with a Rotten Rein: The Art of Survival in Vern Sneider’s *The Teahouse of the August Moon*” を基調講演として発表していただいた。McCaffery 氏は、沖縄に10年間住んでいた経験があり、基地内のクバサキ・ハイスクールを卒業している。11歳の時に沖縄で観た映画『八月十五夜の茶屋』と小説の比較分析をしながら、この小説が第二次世界大戦をテーマにした先駆的な作品であるとオリジナル小説の重要性を強調した。(後日談として、シンポジウム開催を知ったイギリスの出版社 Camphor Press Ltd. が、McCaffery 氏と電子メールで連絡を取り合い、2017年12月に再版された *The Teahouse of the August Moon* の序文として、加筆・修正される形でこの基調講演の原稿が活化されたことは研究代表者にとって望外の喜びとなった。また、この出版社は、クーパー氏が自費出版した *B.C. Street* を2018年の春にタイトルを *The Okinawa We Lost* と変更して出版している。) また、サン・ディエゴ州立大学名誉教授の Sinda Gregory 氏は、Sarah Bird 著の *Above the East China Sea* について研究発表をしていただいた。現代沖縄社会と沖縄戦を舞台に

したこの作品は、当該の科研費助成申請後の2015年に出版された小説で、当初の研究予定に含まれていなかったが、Gregory 氏の強い希望により、研究発表という結果となった。本作品に関する初めての本格的な学術論考となったことで価値のある研究となったと思われる。シンポジウムでは、セリーン・ニサラギ氏 (東京在住) に *Katsuren* の創作過程と沖縄を題材にした理由を報告していただいた。また当初参加予定であったクーパー氏は体調不良のため沖縄の訪問が実現できなかったことは残念だったが、ビデオ出演という形でシンポジウムに参加していただき、小説 *B.C. Street* 創作のきっかけや元米軍海兵隊員の立場から米軍の沖縄占領に関する見解を語っていただいた。また、研究代表者は『八月十五夜の茶屋』の芸者のモデルは、元ジュリ (沖縄版芸者) であった上原栄子氏 (『辻の華』の作者) であるという逸話の妥当性に疑問を呈し、モンロー郡歴史博物館で収集したスナイダー第一次資料の分析から、「芸者のモデル=上原」は、完全な神話にすぎず、スナイダーの創作のインスピレーションは、上原氏ではない別の芸者のエピソードが基になっている、と報告した。

これらの研究成果の学術論文及びシンポジウムでの作家自身による講演原稿などは、全て『沖縄を舞台にしたアメリカ小説の基礎的研究』(2018年3月印刷)の研究報告書に掲載されている。また、この報告書には、スナイダー・コレクションで収集した様々な資料を基に、『八月十五夜の茶屋』に関する詳細な資料として研究代表者と McCaffery 氏と共同で作成した「ヴァン・スナイダー年代記及び精選書誌」(英文・和文両併記)が含まれている。上記以外に、ヴァン・スナイダーとジョン・パトリックの関係性を分析した論考を含めた研究代表者のいくつかの論考は、沖縄キリスト教学院大学の紀要、沖縄大学地域研究所の機関誌、及び沖縄外国文学会の学会誌などで、活字媒体として印刷した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 8 件)

- (1) 渡久山 幸功 (Tokuyama, Yukinori) “Deconstructing the Myths: The Model for Geisha in *The Teahouse of the August Moon*” 『沖縄を舞台にしたアメリカ小説の基礎的研究』(科研費研究成果報告書(査読無)) (2019), 121 - 127 .
- (2) McCaffery, Larry “Riding a Galloping Horse with a Rotten Rein: The Art of Survival in Vern Sneider’s *The Teahouse of the*

- August Moon*. 『沖縄を舞台にしたアメリカ小説の基礎的研究』(科研費研究成果報告書)(査読無)(2019)、77 - 102 .
- (3) Gregory, Sinda “Life is the Treasure: Sarah Bird’s *Above the East China Sea*” 『沖縄を舞台にしたアメリカ小説の基礎的研究』(科研費研究成果報告書)(査読無)(2019)、129 - 140 .
- (4) 渡久山 幸功 (Tokuyama, Yukinori) “GIs’ Gazes on Okinawans: The US Military Occupation in Three American Novels,” 『沖縄キリスト教学院大学紀要』(査読無) 第 15 号 (2018)、41 - 55 .
- (5) 渡久山 幸功 (Tokuyama, Yukinori) “How have Okinawa and Okinawans been Described by American Authors?: Politics of American Writing of the US Military Foreign Islands,” 『地域研究』、沖縄大学地域研究所紀要、(査読無) 第 20 号、(2017)、135 - 146 .
- (6) 渡久山 幸功 「ヴァン・スナイダーの第二沖縄小説 *The King from Ashtabula*」 『沖縄キリスト教学院大学紀要』(査読無) 第 14 号 (2017)、67 - 78 .
- (7) 渡久山 幸功 「ヴァン・スナイダー vs. ジョン・パトリック 『八月十五夜の茶屋』の世界的大ヒット背後にある奇妙な真実」 *Southern Review* (沖縄外国文学学会誌) (査読無) 第 32 号 (2017)、107 - 112 .
- (8) 渡久山 幸功 「沖縄を描いたヴァン・スナイダーの故郷を訪ねて」 *Southern Review* (沖縄外国文学学会誌) (査読無) 第 30 号 (2015)、87 - 94 .

〔学会発表〕(計 11 件)

- (1) 渡久山 幸功 (Tokuyama, Yukinori). “Can You Defend Yellow Face Roles in Hollywood Films?: The Case of Marlon Brando in *The Teahouse of the August Moon*,” The 48th Popular Culture Association/American Culture Association National. Indianapolis (USA), March 30, 2018.
- (2) 渡久山 幸功 (Tokuyama, Yukinori). “How have Okinawa and Okinawans been Described by American Authors?: Politics of American Writing of the US Military Foreign Islands,” The 47th Popular Culture Association/American Culture Association National. San

Diego (USA), April 14, 2017.

- (3) McCaffery, Larry. “Riding a Galloping Horse with a Rotten Rein: The Art of Survival in Vern Sneider’s *The Teahouse of the August Moon*,” 「シンポジウム 沖縄を舞台にしたアメリカ小説」於沖縄県立博物館・美術館(沖縄県・那覇市) 2016年9月10日
- (4) 渡久山 幸功 (Tokuyama, Yukinori). “Deconstructing the Myths: The Model for Geisha in The Teahouse of the August Moon,” 「シンポジウム 沖縄を舞台にしたアメリカ小説」於沖縄県立博物館・美術館(沖縄県・那覇市) 2016年9月10日
- (5) Gregory, Sinda. “Life is the Treasure: Sarah Bird’s *Above the East China Sea*,” 「シンポジウム 沖縄を舞台にしたアメリカ小説」於沖縄県立博物館・美術館(沖縄県・那覇市) 2016年9月10日
- (6) Nisaragi, Celine. “Katsuren: An Okinawa Love Story: Adding a Page to Okinawa’s Literary Culture,” 於沖縄県立博物館・美術館(沖縄県・那覇市) 2016年9月10日
- (7) Cooper, E. A. “Comments re: U.S. Military Occupation of Okinawa,” 於沖縄県立博物館・美術館(沖縄県・那覇市) 2016年9月10日
- (8) McCaffery, Larry. “Okinawa Eyes: Recent American Fiction about Okinawa,” 於沖縄県立博物館・美術館(沖縄県・那覇市) 2016年9月10日
- (9) 渡久山 幸功 「沖縄を舞台にしたアメリカ小説 在沖米軍、ロマンス、ユタ、戦後史」沖縄外国文学学会 第 32 回年次大会 於沖縄キリスト教学院大学(沖縄県・西原町) 2016年6月18日
- (10) 渡久山 幸功 (Tokuyama, Yukinori). “American Military Gazes on Okinawans: The US Military Occupation in Three American Novels,” The 46th Popular Culture Association/American Culture Association National. Seattle (USA), March 23, 2016.
- (11) 渡久山 幸功 「ヴァン・スナイダーの第二沖縄小説 *The King from Ashtabula*」沖縄外国文学学会 第 31 回年次大会 於琉球大学(沖縄県・西原町) 2015年6月20日

〔図書〕(計 1 件)

- (1) Larry McCaffery “Introduction Vern Sneider’s Reinvention of the War Novel: *The Teahouse of the*

August Moon” in Vern Sneider *The Teahouse of the August Moon*.
Camphor Press Ltd (United Kingdom),
(2017), xi-xxxii.

〔産業財産権〕

出願状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等 なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

渡久山 幸功 (TOKUYAMA, Yukinori)
琉球大学・グローバル教育支援機構・非常勤
講師

研究者番号：20412869

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

ラリー マキャフェリー
(McCAFFERY, Larry)
サン・ディエゴ州立大学・英文学比較文学
部・名誉教授
シンダ グレゴリー (GREGORY, Sinda)
サン・ディエゴ州立大学・英文学比較文学
部・名誉教授

研究者番号：なし

(4) 研究協力者

セリーン ニサラギ (NISARAGI, Celine)
作家
エド クーパー (COOPER, E. A.) 作家